

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800055
法人名	株式会社あゆみ
事業所名	グループホームあゆみ となみ野
所在地	富山県砺波市中野340番地
自己評価作成日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時や定期的に家族に認知症ケアを説明し家族、職員双方で協力し入居者の平穏維持の努力をしている。</li> <li>・若い職員が多いため認知症ケアの教育に力を入れている。</li> <li>・時間に追われることなく家庭的な雰囲気でも過ごせるよう個々対応している。</li> <li>・コロナ禍の中でも家族との関わりが無くならないよう努めている（web会議ツール等を活用し）</li> </ul>
---

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年3月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所職員は、理念を常に意識することが出来るように掲示すると共に、全体会議では全職員で唱和し「家族と共に」の支援の実践に取り組んでいる。リビングの高い天井は開放感があり、日差しも適度な明るい環境が整備されている。また、リビングの仕切りも開放することでユニットを自由に行き来でき、職員や利用者が日常的に自然に交流できる。思い思いに過ごせる畳コーナー、廊下一角にはTV、椅子を配置したパブリックスペースがあり、プライバシーを確保しながらも一体感を感じることが出来る工夫をしている。感染対策により活動に制限がある中においても、生活が楽しめるように食事作りや散歩、個別活動等、楽しみや役割を持ち生活できるよう前向きに取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日職員が目にしやすいように事務所と玄関に掲げてある。全体会議時も全員で唱和し日々理念に基づく支援ができるように努めている。	利用者一人ひとりが自分の家として入居してもらえるよう、「家庭的」にこだわった支援を常に意識している。玄関、事務所内に理念(行動指針)を掲示すると共に、見学・契約時にも理念を説明しケアプランに記載している。また、毎月の全体会議では理念を唱和し話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中でも近所の郵便局やコンビニへ少人数で出かけ、道中も地域の方々や店員とふれあう機会を作っている。町内会の獅子舞はコロナ感染対策を講じ玄関先で行ってもらった。	自治会に加入し、施設長を中心に行事への協力や情報発信に努めており、地域行事(三世代交流等)の参加やマラソン大会へ応援に出かけている。事業所内の行事開催では地域住民への参加を呼びかけ、相互交流している。今年は新型コロナ感染対策を講じ玄関先への大祭の獅子舞の招待や、福祉高校実習生の受け入れを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の場で認知症の方々の行動や心理変化について説明し、特に災害時における支援方法について提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、班長に活動内容・ヒヤリハット・事故報告を行い意見、情報交換している。	2カ月に1回を基本に、地域包括支援センター・民生委員・班長・家族(全員)へ開催案内し、運営状況や活動報告、事故・ヒヤリハットについて報告し、意見交換、情報共有を行っている。新型コロナ対策、対応について意見や情報を頂き対策している。開催後は会議録を作成・配布し情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	活動報告等は運営推進委員会会議を通して行っている。コロナウィルス対策については情報支援し、給付金の申請には市の協力を受けた。	毎月地域包括支援センターで開催しているケアプラン研修へ参加している。運営推進会議に地域包括支援センターの方が参加していることもあり、日頃から情報交換や若年性認知症の方の相談を行う等、連携が図られている。また、新型コロナ対策に関する給付金申請についても、市担当者に協力を得ながら行われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束廃止委員会を行い、虐待を含めて意見交換をしている。玄関は開錠してあるがセンサーがついている。	「身体拘束等適正化の指針」を整備すると共に、身体拘束廃止委員会(施設長・管理者・各ユニットリーダー・介護福祉士・ヘルパー)が年4回定期的に開催され、施設の現状について話し合いを行い身体拘束しない実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、研修会に話したことは全員に理解してもらっている。”スピーチロック”についてはその都度お互いで注意し合えるような雰囲気作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修会をうけている。今後職員全員が理解し説明できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は契約時に十分説明し理解を頂いている。追記の書類も説明し、理解のうえ捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応時の要望や意見はカンファレンス時に全職員で共有し今後のサービスに役立てている。	利用者、家族等の意見については、申送りや日報に記入し周知を図り、個人記録に記載し、月1回の合同カンファレンスで共有し対応している。また、メッセージアプリを活用し各職員(利用者家族)、管理者に伝えている。管理者より各職員が指示を受け、スピーディーに対応することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体会議や毎日の申し送り時に職員の意見を広く聞き入れ必要に応じて施設長に連絡、相談し意見が反映できるようにしている。	毎朝の申送りや月1回全体会議で、職員が意見を言う機会を設けている。また、管理者はメッセージアプリにより個別に相談を受け、必要に応じて施設長に連絡報告を行い意見や提案の反映に努めており、職員の離職率も低い現状である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自主申告評価表(年1回)に基づく個人の能力とスキルをチェックしフィードバックによる昇給、賞与に反響している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全てが能力アップできるように外部研修会のお知らせを閲覧できるようにし、外部の講師を招いて施設内研修会を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修・事業所連絡会に参加することで同業者と交流している。コロナの影響で他事業所へ出入りすることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に面接を行い、本人や家族の思いを聞いている。事前に見学を実施している。他のサービスを利用している場合は関係機関から情報入手している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面会や契約時には不安要素や要望について聞き取り不安解消に応じられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思いを十分に聞き取り、その都度必要な支援を提供するようにしている。希望者には管理者とメッセージアプリでつながり、いつでも連絡がとれ、気軽に相談できるような環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力で見極め、状態に合わせ、掃除・洗濯・食事の片付けなどは職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりがなくならないように、体調面・精神面の変化以外でも電話やリモート面会で会話できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人・友人とは電話連絡や手紙のやり取りをしてもらっている。コロナ禍のため自由な外出や面会は制限している。	基本的には、家族や知人等の面会(訪問)は自由となっていたが、新型コロナウイルス感染症対策もあり現在は制限されている。電話や手紙を活用し、関係が途切れないように支援している。利用者の希望に応じて、職員と馴染みの場所を見に行ったりすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分で行動できる・判断ができる人が手助けをしている姿が見られる。職員は個々の利用者の性格を考慮しながら問題が起きないように間に入りお互いの関係性を見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所になっても家族の理解を得て当施設での情報を提供し連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、仕草からも思いをくみ取るように努めている。その思いは職員間で共有し支援の方法に役立てている。	入居前に管理者と計画作成担当者が訪問し、本人と家族同席で思いや意向、暮らしについて把握するよう努めている。特に、入居後7日間は24Hシートで言動・行動・表情等についても把握に努めると共に、日常的に介護記録に記入し合同カンファレンスで共有、話合いの機会を持ち本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族からこれまでの生活歴の情報を頂いている。本人からも日常の会話からこれまでの暮らし方を聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや食事量、水分量の記録で体調を観察し把握している。活動内容や発言を介護記録に残し、心身状態の変化をみるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、アセスメントを行い本人、家族の意向を伺いながらサービス担当者会議を行っている。(現在はコロナ禍で面会制限中のため電話等で意向確認をしている。)	月1回合同カンファレンスを開催し全利用者について話合いがなされると共に、6カ月毎にモニタリング・アセスメントを行い担当職員・計画作成担当者・本人・家族でサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画の見直しに努めている。(現在は、新型コロナウイルス感染対策により面会制限がある為、電話で家族と話している。)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には本人の発言や対応の記録を書き全職員が確認できる。問題行動に対する成功例などは申し送り、よりよい支援になるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や受診の付き添いなど、本人や家族の状況に合わせて支援している。希望者にはマッサージ施術の訪問や訪問歯科を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度までは幼稚園児や小学生との交流や地区の敬老会などへの参加もしていたがコロナ禍のため今は実施できていない。テイクアウトを利用して施設内でも楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族が決定している。受診は原則家族にお願いしているが不都合な場合職員が同行している。	入居時、本人(家族)が希望される医療機関を利用してもらっている。家族同行受診を基本としているが、現在はコロナ感染症対策として事業所で対応している。現在の様子や状態をシートに記載し、適切な医療が受けられるように連携を図っている。都度、家族への報告相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度契約看護師の訪問がある。日々の記録、体調の申し送り情報を共有した上で健康上の相談、適切な処置の方法の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携室と情報交換し症状の把握に努めている。退院後もスムーズな支援ができるように退院時看護サマリーで情報を把握し家族も交えてサービス担当者会議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りは実施していないことを説明している。重症化した場合は、どのような形がよいか話し合うことにしている。	重度化については入居時に指針にて看取りは行わないことを説明し、家族より理解を得ている。心身機能低下に伴い、管理者・計画作成担当・主治医・家族で話し合い協議し、状態に即した支援となるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し掲示している。判断に迷う場合管理者や看護師に連絡し指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間日中想定で避難訓練を実施している。水害においては水害想定避難訓練も行い運営推進委員会会議で報告している。	消防署立会で年2回、日中夜間を想定した防火訓練を実施している。近隣住民5家が自動火災通報装置に登録していただき、火災時の協力体制が確保されている。水害の対応は運営推進会議で協議し、地区の訓練日に事業所内で洪水ハザードマップに基づいた垂直避難訓練を実施し、地区担当者に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解し適切な対応をとるよう努めている。プライバシーを損ねた発言がみられた場合は注意し合える職場環境になるよう努めている。	日頃から、なじみの関係がなれ合いとならないように言葉掛けを留意し、人に合わせたリズムで生活できるように職員間で共有し実践できるようにしている。管理者は現場で勤務しており、望ましくない対応については、その都度適切な対応となるように注意している。また、個人情報保護とプライバシー保護をテーマに、職場内研修を開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の場所や時間を本人のペースや希望によって変更している。おやつや行事食などセレクションの機会をつくり自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活の流れは決まっている。レクリエーションへの参加は本人の思いを尊重し無理強いないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで着ていた服を持参して頂いている。好みの色や服を選んで着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなどを可能な方には手伝いをしてもらっている。ホットケーキや焼きそばなども楽しみながら職員と共に手作りしている。	通常時は業者より献立と食材が届き、可能な範囲で調理に参加してもらっているが、月数回は利用者の希望に応じて買物調理を行っており、意見書を提出することで柔軟に対応できる体制がある。記念日や季節行事では利用者の希望に応じ寿司等の出前をしたり、おやつにはホットケーキ・どら焼・たこ焼等を手作りしたりと利用者、職員共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量は記録している。必要な方には毎日体重測定を行う。食事量、栄養バランスに問題がある場合には、かかりつけ医に相談し、栄養補助食品を利用することになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に歯磨きの促しをする。自力でできない方は全介助や一部介助にて行う。義歯の消毒は毎晩行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けてパターンを知り間隔を確認しながら声掛け、誘導を行っている。自力で行ける方はパッド折れの確認をするなど各々の能力に合わせて支援している。	なるべくトイレで排泄できることを基本に、排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し、個々に沿った声掛け支援を行っている。車いすを利用している方やバルーン留置されている方等については職員2名で対応し、自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、散歩、体操をすすめ自然排便を促している。便秘症の方には医師に相談し下剤の処方を受け便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴だが本人の体調、気分により変更することができる。基本平日の日中に入浴時間をとっているが場合によっては、土日や夜間入浴もできる。	週2回の入浴を基本としているが、希望に応じて2回以上入浴されている方、夜間入浴をされている方もおられる。事業所内には、機械浴・一般浴・個室があり、身体機能に応じて負担なく安心した入浴となるよう支援している。また、入浴剤や季節でゆず湯を行う等入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて午睡やその他の時間の休息がとれるように室温や湿度を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者それぞれの服薬内容をいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は全員に申し送り把握できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや片付けや盛り付けなどが可能な方はできる範囲でして頂いている。畑仕事が好きな方には職員が関わりながら野菜づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍のため家族との外出はかなわなかった。施設周辺の散歩や近所への買い物へは少人数で出かけていた。	新聞やTV、日常の会話から希望を把握し、季節に応じて、ひまわり畑・コスモス畑・チューリップ畑等へのドライブを楽しんでいる。天候に応じて事業所周辺の散歩や買物に少人数で出かけて近所の方と挨拶を交わしている。家族との外出等については、感染対策により控えている状況である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル防止のため本人のお金は施設で預かっている。職員が同行して買い物へ出かける時は自分でお金を渡すように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば事務所の電話を利用してもらっている。携帯電話をお持ちの方は居室から自由に使っている。知人や家族に手紙を出したい方は切手、封筒などの準備を支援している。行事として年賀状や暑中見舞いのハガキを書く機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下には季節感のある貼り絵やぬり絵などの作品を掲示し四季がわかるように工夫している。視力の悪い方の居室入口の電灯を明るくつけ夜間でもトイレまでの道中が安全であるように配慮している。	リビングの高い天井は開放感があり、窓からの日差しも適度な明るい環境が整備されている。ユニットリビングの仕切りも開放することで自由に行き来ができ、職員や利用者が日常的に交流できる。畳スペースは利用者が足を延ばしたり、洗濯物を畳んだりTVを見たりと思いに過ごせる。また、廊下の一角にはTV、椅子を配置したパブリックスペースがあり、プライバシーを確保しながらも一体感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や関係性をみて自席を決めている。ソファや畳の広間は午睡に使ったり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物の持ち込みをお願いしており、本人が安心感をもって生活できるように配慮している。	居室は和室とフローリングがあり、夫婦で利用できる居室も準備している。居室入口は、自宅玄関のような軒先が付いており、自宅を感じさせる雰囲気となっている。居室内は、個々の好みや思い出に応じて、歌手のポスターや写真、手作りされた装飾品が飾られているなど居心地の良い空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室は分かりやすいように表札をつけ希望により顔写真を入口に貼ってある。歩行の不安定な方は歩行器や車椅子の使用をお願いし自力で移動して頂くよう促している。		

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームあゆみ となみ野

作成日： 令和3年3月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が社内では共有し実践できているが外部にも発信するのが好ましい。	施設を外から見ても何をしている所か分からない為理念に基づく家庭的なホームということをもっと外部(町内等)に知ってもらう。	パンフレット、理念をポスター作成し町内、集会場に掲示。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。